

無用な追加被ばくの心配をしなくてすむ社会の実現を

日本も批准している、世界保健機関（WHO）憲章の前文における健康の定義は、「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」となっています。肉体面だけでなく、精神面、社会面も含まれていることが重要です。放射線被ばくについていえば、無用な追加被ばくや肉体的影響の心配をしなくて済むこと、社会的ルールが遵守され人権が守られること、などが当てはまるでしょう。

事故後の早い時期にきわめて多くの放射性物質が降下した地域に暮らしていた子どもたちが、甲状腺がん罹患して手術を受けなければならなくなった事例が多数発生しています。甲状腺がんによって、困難を抱えたり、望んでいた将来を諦めなくてはならなかったりした若者たちを原告とする訴訟も進行中です。

政府や東京電力は、原子炉建屋で放射性物質に触れて汚染した大量の水を、ALPS（多核種除去設備）を用いて

処理した、いわゆる「処理水」を海に流すことを既定の方針として準備を進めています。福島第一原発事故の被災地の多くの住民がこれに反対しています。地元住民や漁業関係者の同意なくして海への排出はしないという約束は守られるはずであると信じています。事故がもたらした放射性物質による放射線被ばくが人々の生活を脅かし続けていることが明らかです。

今後、稼働する原発がある以上、過酷事故が起きる可能性はゼロにはできません。福島第一原発事故より深刻な事故も起こりえます。テロに備えることまでは準備できますが、ロシアのウクライナ侵攻によって、戦争によって生じる巨大な被害には対処の仕様がなにも露わになりました。そのような不確実な状況を考えれば、脱原発によって破滅的な事態が生じる可能性をゼロにしたいという市民のリスク認知も合理的と言えます。脱原発により、無用な追加被ばくの心配をしなくてすむ社会を実現するかどうか、市民を含めた社会的意思決定が求められます。

福島第一原発事故発生から10年余り。

「復興」という目標の陰で、見えなくされたものはないか。

ほんとうの「復興」とは何か、みんなで考えるきっかけを作るために…

「復興」と20ミリシーベルト

ともに暮らす家(=地球)を大切にするために



福島第一原発事故発生から10年余りが経ちました。地震、津波、原発の爆発、避難する住民の方々の姿は、今も忘れることができません。この10年間、原発事故被災地の復興は、順調に進んできたかに見えます。しかしながら、実は今もさまざまな課題が未解決のまま取り残され、「復興」という目標の陰で、それらの問題が見えにくく、語りにくくされてしまっているのも事実です。現在進められている「復興」は、現状を正直に見つめたものと言えるでしょうか。日本国憲法第13条が保障する、(個人の)生命、自由及び幸福追求の権利は尊重されているでしょうか。これは、わたしたちみんなの問題です。被災者の方々はもちろん、「わたしたちみんな」の、心とからだ置き去りにされてはいないでしょうか。

わたしたちは互いを必要としていること、他者と世界に対して責任を共有していること、善良で正直であることにはそうするだけの価値があること、こうした確信を、わたしたちは取り戻さなければなりません。229

もはや、…わたしたち自身の尊厳こそが危機にさらされていると理解する必要がありません。生息可能な惑星を将来世代に残すことは、何よりもまず、わたしたちにかかっているのです。160

教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』から

参考文献・資料：放射線と被ばくの問題を考えるための副読本「減思力」を防ぎ、判断力・批判力を育むために（福島大学放射線副読本研究會、2012.3）/私たちの放射線副読本 子どもたちの未来のために真実を求めて（とやま原子力教育を考える会編、2016.7）/回勅 ラウダート・シーとともに暮らす家を大切に（カトリック中央協議會 2016.8）/今こそ原発の廃止を——日本のカトリック教会の問いかけ（カトリック中央協議會 2016.10）/図説・17都県放射能測定マップ+読み解き集 2011年のあの時・いま・未来を知る（みんなのデータサイト、2018.11）

発行責任者：日本カトリック正義と平和協議會 〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 TEL：03-5632-4444 Eメール：jccjp@cbcj.catholic.jp https://www.jccjp.org/ 監修：後藤忍、島菌進、光延一郎 編集・デザイン：(株)佐藤デザイン室 2022年8月1日発行 第1刷 表紙写真：photoAC

2022年3月31日、外務省は、1986年4月26日に原発事故の発生したウクライナの地名を従来の「チェルノブイリ」から、ウクライナ語の発音により近い「チョルノービリ」に変更しました。しかし原発事故に関しては「チェルノブイリ原発」の呼称が既に一般化しているため、本パンフレットでは従来の「チェルノブイリ」を使用しています。

日本カトリック正義と平和協議會